

岡山大学大学院予備教育特別コース
2021 年度第 3・4 学期開講授業紹介

【入学から半年の授業】

授業科目名	学術日本語表現Ⅰ（週 2 日開講）※選択科目
授業の概要・目的	
研究課題を決めるために必要な「考え方」のトレーニングを行うとともに、研究計画書・論文の構成や表現などを身につける。	
到達目標	
クリティカルライティング・リーディング、情報収集・処理のスキルを育成しながら日本語による論理的な文章の書き方を身につける。	
教科書	
『実践 研究計画作成法[第 2 版]—情報収集からプレゼンテーションまで』（2019） 北原保雄監修（凡人社）	

授業科目名	学術日本語表現Ⅱ
授業の概要・目的	
日本語で学術的な文章を書くために習得しておくべき語彙、文型、表現、論文構成、展開パターン、事実・意見の提示、論証の方法などを学ぶ。さらに、教科書で学んだことをもとに、各自の専門分野の論文を分析し、学術的な文章表現の理解を深める。	
到達目標	
研究計画書、レポート、論文を作成するための基礎的知識や能力を身に付ける。	
教科書	
『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』（2015） アカデミック・ジャパニーズ研究会（アルク）	

授業科目名	個別研究Ⅰ ※選択科目
授業の概要・目的	
この授業は、大学院出願のために、学術的日本語表現だけでなく研究テーマの設定、構成などの研究計画書の基本的な書き方を身につけることを目的とする。8 週間で研究計画書を完成させるため、学生は自分の研究内容をよく考え、何度も書き直す必要がある。学期の後半では、研究計画書をもとに個別面談を行い、試験に向け各自の習得が必要な点を見つける。この授業では、最終的に、2000 字以上の研究計画書を作成することを目指す。	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の関心や専門分野をよく理解し、研究課題を明確に表現できる。 2. 専門的知識と大学院で行う予定の研究を関連づけながら、論理的で実現性のある研究計画書を作成できる。 3. 研究計画について、細部まで詳細を説明できる。 	
教科書	
なし	

授業科目名	日本語文章力 I
授業の概要・目的	
論理的な文章を読み、内容の展開と文章の構成を読み取る。 そして、論理的な文章が書けるように訓練をする。 また、論文・レポートにふさわしい文体で書く練習をする。	
到達目標	
論理的で説得力のある文章が書けるようになること 論文・レポートにふさわしい文体で文章が書けるようになること	
教科書	
『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(2020) 二通信子・佐藤不二子著 (スリーエーネットワーク)	

授業科目名	コミュニケーションスキル I
授業の概要・目的	
1. 大学教員や事務との連絡方法、また大学での生活における周囲の人々との円滑なコミュニケーションをとるために必要となる表現を学ぶ。 2. ゼミ発表やディスカッションにおける意見の述べ方や質疑応答の仕方など、大学院進学後の授業で必要とされる口頭表現や技術を学ぶ。最終発表として各自専門に関する発表を行う。	
到達目標	
1. 大学生活において、それぞれの場面にふさわしい表現を使い、人間関係を構築しながら自分の考えを明確に伝えられるようになる。 2. 専門内容についてスライドを用いて発表ができるようになる。	
教科書	
ハンドアウトを配布	

授業科目名	学術文章読解
授業の概要・目的	
本授業は専門分野の論文を自力で読むための基礎的読解力を身につけることを目的とし、次の①②を行う。 ①学術的文章を読むために必要な知識を学習する。 ②その知識を基に理解した文章に関する口頭発表や、要約文の作成などを行う。 授業は主にテキストの本文読解を中心に進められるが、授業前の本文新出語の予習、授業中のクラスメートとの協働作業、授業後の課題提出など、積極的な取り組みが求められる。	
到達目標	
1. 論文・レポートの構成がわかる。 2. 多量の情報から、必要とされる情報を素早く取捨選択できる。 3. 論文・レポートの要点・論点がわかる	
教科書	
『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』(2019) アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 (アルク)	

【半年から1年の授業】

授業科目名	学術研究演習
授業の概要・目的	
<p>学術活動の中には、口頭による情報伝達場面もある。たとえば、ゼミや研究会などの人前での発表である。そうした場面では、PCの使用が認められていることも多い。本授業では、人前での情報伝達能力向上のために、パワーポイントを用い、学術的内容を伝達する活動を行う。各自専門分野の文献を読み、要点をつかみ説明能力を高める。加えて、理解を補助する効果的な発表資料の作成技能を身につける。</p>	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的な内容について、内容を適切にまとめ、相手に配慮した説明能力・技術を使い、話すことができる。 2. 相手に情報を効率よく伝えるために、パワーポイントや話し方を工夫できる。 	
教科書	
なし	

授業科目名	個別研究Ⅱ
授業の概要・目的	
<p>本授業では、大学院入試出願に向け、面談で担当教員と話し合いながら、各自の研究計画書の内容を精査・吟味する。入学から半年の間に作成した研究計画書をもとに、専門科目の学習と並行して、より具体的で研究内容が明確になるよう検討を重ねる。また、個別の学術日本語や専門分野の理解深化のために、担当教員との個別面談により、各自の習得が必要な点を見つける。</p>	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術的な表現を適切に用いて、必要な情報や根拠を含んだ研究計画書を作成できる。 2. 自分の研究計画書について、その概要を順序立てて、分かりやすく説明することができる。 	
教科書	
なし	

授業科目名	日本語文章力Ⅱ
授業の概要・目的	
<p>本授業は日本語で論文・レポートなどの学術的文章を書く技能を身につけることを目的とし、①②を行う。 ①レポート・論文を書くために必要な基本的知識(手順、構成、表現、文法等)の確認と、間違えやすいポイントの意識化を行った上で、自力で推敲できる「自立した書き手」になるための訓練を行う。 ②各自の専門分野の知見を深め、その内容に関するレポートを作成する。</p>	
到達目標	
<p><読む>筆者の主張や書き方の問題点を指摘できる 複数のテキストを読み、対立する議論の争点を読み取れる <書く>レポート作成のためのアウトラインが作れる アウトラインに沿って、資料を用い段落を充実させられる 書いた文章の推敲ができる</p>	
教科書	
『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』(2016) 小森万里・三井久美子著(くろしお出版)	

授業科目名	コミュニケーションスキルⅡ
授業の概要・目的	
この授業では、大学院の授業や研究発表で必要とされる日本語口頭表現力、コミュニケーション能力の向上を目指す。研究発表、質疑応答、ディスカッションなど学術的議論に必要な口頭伝達技術を学ぶ。また、様々な活動を通して、自分の言いたいことを適切に相手に伝える表現や方略を他の学習者と検討し、共有しながら学ぶ。	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義形式の短い話を聞き取り、内容を整理して自分の言葉で話すことができる。 2. 学術的議論の場にふさわしい表現を使うことができる。 3. 資料を用いた口頭発表が円滑にできるようになる。 4. 自分の言いたいことを、聞き手の感情に配慮して説得的に話すことができる。 	
教科書	
なし。授業資料を Moodle にアップロードするので、事前にダウンロードする。	

授業科目名	進学支援指導
授業の概要・目的	
この授業では、大学院入試での論述課題のために、論述の校正や方法を学び、自分の専門分野に即して実践する。与えられた指示に対して、これまで学んだ学術日本語表現を用い、論述的で明快な論述文が書ける能力を養う。	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 明確な主張と正当な根拠を表現できる。 2. 文章をまとめ、自分の解釈や考察を伝えられる。 3. 決められた時間内に論述文を書き上げることができる。 	
教科書	
なし	

【共通科目】

授業科目名	口頭表現演習 ※新入生選択科目
授業の概要・目的	
この授業では大学院入学試験など学術的な場面で十分に対応できるような口頭表現能力、ならびにマナーを習得することを目的とする。対象とする範囲は、一般的な質問内容から学術的専門分野、研究計画までの幅広い内容で、受講者はそれぞれの質問の回答を考え、練習を行う。	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院レベルの学術的な質問に、柔軟かつ的確に回答できる口頭表現能力を身に付ける。 ・学習者個人の専門分野に関する知識や研究計画をわかりやすく説明できる能力を習得する。 	
教科書	
なし（オリジナル教材）	

授業科目名	アカデミック・リスニング I
授業の概要・目的	この授業では大学院の講義を効果的に理解するための総合的な能力の育成を行う。コース前半の第1回目～第8回目では、講義理解のストラテジー（方略）を学んだ後、実際に講義ビデオを見て、重要な部分を意識しながらノートをとる練習を行う。後半の9回目～16回目では、最近のニュースを取り上げ、タスクに回答する活動を行う。全期間を通して他の学習者と協力して講義内容をまとめ、発表するピア・リスニングを行い、協働的な学習によって理解を促進させる。
到達目標	大学院レベルの日本語を理解する「アカデミック・リスニング」の能力や、聴き取った内容を要約・整理する「ノートテイキング」の能力を習得することを目標とする。具体的には、①言葉の意味や次の展開を予測しながら聞く、②メタ言語を効果的に聞き取り、その構造に沿ってノートが取れる、③一度聞き取った内容の修正や精緻化をしながら聞ける、④様々な情報を統合して要点をつかみ、発話の意図が理解できる、⑤聞き取った内容に対して自分自身の意見を持てるようになることを目指す。
教科書	なし（オリジナル教材）